



なおちゃんのししとう



「ちゃんとしてあげると木が喜んでいる気がするんですよ」と言葉の端々から愛情が伝わってきます。



ちょっとした弾みで枝がポキッと折れてしまいます。



「わが子のように可愛い」と目をかけ手をかけ心を込めて育てられています。

★愛情たっぷりで育てたししとうです

今年で就農8年目のなおちゃんは、おかげさま農場の出荷や直売所のスタッフもやりながら、坊ちゃんかぼちゃ、なす、そしてししとうを作っています。就農2年目から作っているししとうは「小さくてピカピカしていて可愛いらしいじゃないですか。またピリ辛なところも好き」と言います。夏野菜のししとうですが、種は2月下旬の寒い時期に蒔き、じっくり育てて5月に定植します。最初は生育を促したり遅霜にやられないようにビニールトンネルをかけ大事に育てます。ある程度大きくなった後、ビニールを外して木が倒れないよう支柱を立てたり、木が3本仕立てになるよう整枝をしてすくすく育つような環境を整えます。

また、ししとうの木はとても折れやすいそう。「ナスはぐにゃ〜んとゴムのようになるけど、ししとうはすぐに折れるんですよ」とのこと。そのため枝が寄りかけられるように支柱を工夫したり、台風が来る前に支柱の間に紐を張ったりと対策をします。更にししとうが凄いのは収穫量。最盛期は1本の木で1日5袋分も収穫出来る時もあるそう。とにかく多いので取り忘れがあると1つの実が大きくなり枝が折れやすくなったり、木が弱ってしまいます。そのため実が大きくなる前にひたすら取り続ける必要があるのです。「もっと木の手入れを早めにしてあげたら良いんですけどね」と汗をだくだく流しながら、毎日手入れを頑張っています。

「子供のように可愛い」と愛情たっぷりに育てられたなおちゃんのししとうを食べて心もお腹も満たされましょう。

【産地情報】

◎ニンニクの規格はL1ヶからM2ヶになりました。